

～研修レポート～

名古屋第一赤十字病院 研修医 2 年目

研修期間：平成 30 年 5 月 14～6 月 10 日

4 週間、総合診療科で研修させていただき大変お世話になりました。日々ご指導下さった先生方をはじめ、外来や病棟 Ns、送迎対応していただいた病院事務の皆様、MSW の皆様、親身に接して下さりありがとうございます。当院では大病院ゆえか、あまり挨拶がかわされないのですが、研修医とわかりながらも気持ちよく挨拶して下さる方ばかりで、働く以前に挨拶の重要性にも気づかせていただきました。病院に戻っても意識的に行っていきたいことの一つとなりました。

当院の研修では、救急対応か重症患者の急性期管理がほとんどで、施設入所後などその後のフォローについて知る由がありませんでした。同様に老健や特老といった施設の実際の様子や、介護に苦労されているご家族の背景なども漠然とした知識でしか理解していませんでした。院外の実習を通じ、普段知りえない多くの場所を見学・実習させていただきました。大学の時以来であり、昔とは違った視点からもう一度学び直すことができました。地域医療の抱える問題点に触れる一方で、その中でも明るく現状の中で活躍されている方々の様子も伺い知れました。実際に救急車同乗で CPR しつつ転院搬送をすることがありましたが、医療連携がなされることで十分なバックアップ体制があることも現場でみることができました。普段は転院を受ける側であり、転院搬送する側の苦労や相手病院へのニーズを知る良い機会となりました。

最も学びが多かったこととして、日々、先生方から全患者のフィードバックがあることです。何気ない投薬や検査ひとつにも、患者にとって最大の利益となるように EBM ベースで教えていただくことは、まだまだ知識が不十分な自分としては大変参考になりました。一方で医学的知識に則った行動をしつつも、総合診療科的診察として患者背景も含めて医療を行っていくことの大切さを学びました。実際の入院担当患者ではほとんどの方が寝たきりで意思疎通もとれない方ばかりでした。その中でも身寄りのない方、自宅介護を望むご家族、積極的治療を望まないご家族を見ることとなり、終末医療は一言で語れない深みがあり自分の中でも大きい今後のテーマとなりました。

本研修では、地域医療の特性を経験させて頂き、総合診療的思考を身につけることできたと実感しています。4 週間ありがとうございました。